



マスターズ時報

第40号

令和4年12月23日

北海道マスターズ陸上競技連盟

発行責任者 会長 角谷 信

■2022年北海道選手権は札幌市開催です。

次の第36回北海道選手権は8月7日日曜日に札幌円山競技場で行われます。2016年の第31回大会以来、2度目の札幌開催となります。

北海道で最初の全天候競技場であり、南部忠平ポールや田島直人オリンピックオークなど陸上競技にゆかりのある記念物もマインドを高めてくれる施設です。前回開催は200人を超える参加をいただきました。今年も多数の参加を期待しております。

北海道選手権は、2023年苫小牧緑ヶ丘競技場、2024年旭川花咲競技場を予定しています。



■2022年全日本マスターズは福井県9.98スタジアム



2021年はコロナ禍の影響により開催に至らなかった全日本マスターズですが、2022年は9月23日金曜日から9月25日日曜日までの3日間での開催が決定にあります。

開場となる福井県営陸上競技場は、2017年に桐生祥秀選手が男子100Mで9秒98の歴史的記録を樹立し、2019年には城山正太郎選手が走幅跳日本記録8m40を樹立した競技場です。その後も好記録が続出したことでモンスタースタジアムとも称されています。

大会要項はまだ開示されておりませんが、エントリーするにはマスターズ登録と陸連登録の完了が条件となります。例年の流れですと、日本マスターズ陸上競技連盟のホームページより、個人にてWEBエントリーすることとなります。申込締め切りは6月上旬となると予想されます。5月中の手続完了が望ましいです。近隣に宿泊施設が少ないようですので、3月下旬には予約しておいたほうがよいでしょう。

■ルール改正！ 競技会で使用できないシューズとは

世界陸連のルール改正により、競技会で使用できるソール（靴底）の厚さに制限が加わりました。

各メーカーともに2022年シーズンに市販するスパイクは、新ルールに適合させています。すでに購入済のスパイクについても違反となるものはありません。注意すべきは投擲競技のやり投専用スパイクで、踵よりつま先が厚いシューズが禁止となりましたので、これに該当する2021年以前の市販されているスパイクは使用できません。特例として2022年シーズンまでは競技に使用できますが、地域記録や大会記録は公認されない可能性があります。

問題はランニングシューズで競技会に参加する場合です。800M未満の種目では20mm以下、800m以上の種目で25mm以下の制限があります。2021年シーズンの市販品で、例えばアシックスですと20mm以下のランシューはありません。ソーティーマジックでようやく800M以上に使用可能です。ミズノのウェーブエキデンが20mm以下ですが、サイズによってはオーバーします。インソールを外して使用するの、規程内のソールの厚さとなってもシューズのカスタマイズと見做され違反となります。

2022年シーズの市販シューズについては、メーカーが世界陸連にソールの厚さを登録していますので、スポーツ店で確認して購入することをお勧めします。また念のため、下記の方法で、自身のシューズの靴底の厚さを計測しておくこともお勧めします。

【トラック種目】（リレーは1人当の距離）

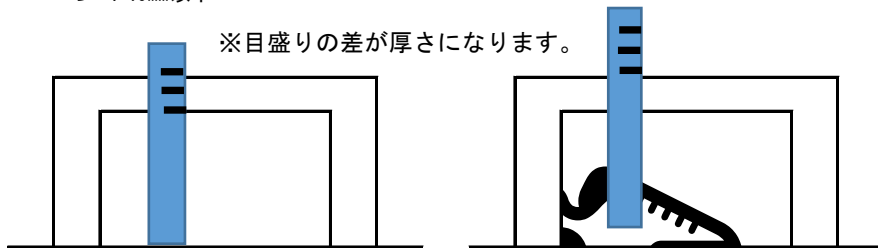
800 m 未 満 : 20mm以下
800 m 以 上 : 25mm以下
競 歩 : 40mm以下

【フィールド種目】

三 段 跳 : 25mm以下（前足部より踵が厚い）
そ れ 以 外 : 20mm以下（前足部より踵が厚い）

【ロード種目】

ロ ー ド : 40mm以下
ク ロ カ ン : 25mm以下
ト レ イ ル : 規程なし



■みなさん、冬トレがんばってますか？

寒さに負けじと厚別公園競技場の屋内走路および屋内投擲場に現れたマスターズの顔ぶれのショット！皆さん精力的ですね。左から竹澤さん、大野さん、對馬さん、村上さん、高橋さん、岩田さん、宮本さん、石川さん、宮本さんの面々でした。

